











年間授業計画

成瀬 高等学校 令和6年度（2学年用） 教科 芸術 科目 選択書道

教科：芸術 科目：選択書道 単位数 1 単位

対象学年組：第 2 学年 1 組～ 6 組

使用教科書：（教育図書 書Ⅱ）

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】表現・および解釈に必要な知識と、効果的な技能を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】自分や他人の作品について、根拠をもって評価・判断し、味わい深く捉えることができる。

【学びに向かう力、人間性等】表現の幅広い可能性について、感性を高め、自らいろいろな角度から取り組もうとしている。

科目 選択書道 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
書の表現方法や形式、多様性の理解を深め、用具用材の特徴と用筆運筆と関係性を実技を通して体得する。自らの意思に基づいて構想を練り、それを実現するための技能を臨書活動を通して身につける。	作品や書の伝統とその文化的価値を考え、書的美を鑑賞する資質や能力を育てる。体得した知識技能を生かし深い鑑賞力を身につけ、構想に対する表現の工夫や分析的な思考をより深くする。感じ方や考え方の多様性を自覚し、適切な用語で言語化できるようにする。	自身の活動を振り返り見直しを立てながら試行錯誤を繰り返して粘り強く取り組む姿勢を身に着ける。書的美を感受しながら、生活や社会の中での書や文字の意味や価値を主体的に見出す姿勢を身に着ける。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	能	配 当 時 数			
		漢 仮	漢	仮									
1 学 期	芸術書道を学習するために書道全般の基礎知識の確認と理解を深める。  単体一文字ごとの基本形と運筆の習得。穂先のあたり・回転の習得。筆の流れによる文字と行の造形の関連の理解と実践。連綿線の方向と長さ、文字の配置の工夫の重要性の理解を深める。	仮名の歴史。 仮名の用具・用材や執筆と基本用筆法の理解。 仮名の用筆・運筆法の理解と単体の習得。連綿の運筆法・造形の理解と習得。 変体仮名の理解。書体の流れとその歴史背景との関連。			○	○				○	○	○	6
	古典作品を広く見渡し鑑賞し、日本独自の紙面構成である散らし書きへの理解を深める。 料紙に歌一首創作することで、全体構成を理解習得する。仮名表現の多様性を知る。	散らし書きを用いて歌一首を効果的に紙面配置する。 変体仮名・連綿への理解と習得。 寸松庵色紙・升色紙・継色紙篆書の基本用筆及び基本点画。				○	○				○	○	○
2 学 期	古典を観察・臨書することで、芸術的視野を広げる。用筆・運筆の理解と文字造形の関連性の理解。隷書の文字造形の法則性の理解・実践。隷書の多様性を知る。	隷書の歴史。 用筆・運筆の理解、基本点画の習得。 臨書 木簡・曹全碑・乙瑛碑・石門頌			○	○				○	○	○	8
	用筆・運筆と文字造形の関連性の理解。 篆書の文字造形の法則性を理解・実践。 篆書の多様性を知る。	篆書の歴史。 用筆・運筆の理解、基本点画の習得。 臨書 泰山刻石（小篆）・石鼓文（大篆）・大孟鼎（金文）・甲骨文			○	○				○	○	○	6
3 学 期	篆刻を構成する様々な要素について理解する。線質・字形・構成等の要素と書作品への印の表現効果や風趣とのかわりあいについて理解を深める。篆刻の多様性を知る。	篆刻の歴史。 篆刻の用具用材や奏刀法の理解及び習得。 検字・草稿・布字への理解。鈐印法・印泥の取り扱いの理解及び習得。			○	○				○	○	○	3
	紙面統一の方向性を考える。 自由な発想と展開を引き出す。 芸術の意味を考える。	漢字仮名交じりによる創作。 半切1/2に書く。				○	○				○	○	○
										合計			35

高等学校 令和6年度（3学年用） 教科 芸術 科目 幼児教育音楽

教科： 芸術 科目： 幼児教育音楽 単位数： 1 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 7 組

使用教科書： （ みんなピアノだい好き！ ）

教科 芸術 の目標：

【知識及び技能】 楽典の基本・およびキーボードを中心とする楽器の基本的な演奏技能を身に着ける。

【思考力、判断力、表現力等】 子どもの身体能力や感受性・思考力を考え、ふさわしい表現を考えて実践する。

【学びに向かう力、人間性等】 子どもが音楽を通じて成長できるようにどのようなことをすべきか、様々な見地から考えようとする。

科目 幼児教育音楽 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・キーボードの基本的演奏技能を定着させる。 ・歌い弾きができるようになる。 ・リズムを正確に表現することができる。	・無理のない指使いについて、自分の手に合わせて考える。 ・子どもの理解力や表現力を高めるような声掛けについて考える。	・子どものイメージが喚起される道筋を知る。 ・子どもの身体感覚とリズム感の育成について考える。 ・子どもの意欲を喚起する教師側の演奏法について考える。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		歌	器	創					
1 学 期	<キーボード> ・楽譜の基本的な読み方を知る。 ・キーボードの基本的な奏法を知る。 ・キーボードと楽譜の位置関係について正確に知る。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末	○	○	○		○	○	4
	<歌唱> ・楽譜やことばを正確に、他人に伝わるよう歌う技術を身に着ける。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末	○		○			○	12
	<リズム> ・基本的なリズムを正確に再現できるようにする。 ・リズムをたたきながら歌ったり弾いたりできるようにする。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末			○		○		4
	<身体表現> ・身体を使って他人とコミュニケーションをとる方法を探る。 ・身体を使ってある具体的な対象を表現する方法を探る。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末			○		○		4
2 学 期	<歌唱> ・二～三重唱について、相手の音を聴きつつ、響きやバランスを把握しながら演奏できるようにする。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末	○		○			○	10
	<器楽> ・キーボードの基本奏法を復習し、コードネームの原理と奏法について学ぶ。 ・歌いながらキーボードのコードネームが演奏できるようにする。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末	○		○			○	18
3 学 期	<創作> ①設定された条件の中で、2～4小節程度の旋律を作ることができる。 ②聴く人の情感に沿った流れのある旋律を作ることができる。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末		○	○			○	6
	<器楽> キーボード・ギターを中心に、メロディをコードネームを必須としたアレンジによるアンサンブルを試みる。	・教科書 ・補助教材（プリント） ・ICT ・1人1台端末	○		○			○	12
									合計
									70